

宮内孝久著「大学(私)は何ができるか—"Critical Thinking 教育(仮称)"を通じて「繋ぐ力」を育成する—」IDE 現代の高等教育No. 652、2023年7月号を読む

## 大学(私)は何ができるか

### 1. (1)私は、大学教育において、

- ・各々の専門分野の深堀りに加え、
- ・異なる専門同士を、異なる文化を、または、専門と一般を「繋げる力」を育むとともに
- ・柔軟な思考ができ騙されず
- ・豊かな世界観を持つ学生を育てたい。

### (2)①日本社会に足りないのは、無限に広がる各専門分野の優れた力を「繋ぐ力」と考える。

#### ②企業、行政、大学などの多くの集団には、

- ・異質を敬遠する閉鎖性があり、
- ・タテに拘泥というより、
- ・そこに安住する傾向が見られる。

#### ③タテの呪縛から解放し、

- ・新しい思想、技術、経営手法、モノとコトを意識的に繋ぐ、
- ・それこそユニバーシティ概念であり、
- ・リベラルアーツであるが、
- ・今回の大学設置基準改正はこれを実現する契機となると評価する。

#### ④基幹教員制度の導入は、

- ・内外の民間企業、研究機関の最先端人材を日本のアカデミアに招き入れるきっかけとなり、
- ・また、優れたリベラルアーツ教育を教授できる教育が
- ・一箇所の大学に留まらずに流動性を高め大学連携の進化とともに
- ・広く学生達を刺激しよう。

#### ⑤特例制度によりオンライン授業の上限単位数制限が緩和されたことは、

- ・産業革命以来のAI革命パラダイムシフトに挑む時宜を得たもので、
- ・様々な力の「繋ぐ力」を飛躍的に高めると期待する。

### (3)①私は「画一性」「閉鎖性」「利権」が日本のリスクと考えるが

- ・多様性を求め集団の壁を打破し開放された場として大学を位置付け
- ・実際の手法として"Critical Thinking 教育(仮称)"の再定義検討を提案したい。

#### ②「教養教育」との表現には戦後の教養課程に対する偏見と重なる懸念があり

- ・また、「リベラルアーツ」には知識偏重との印象があるので、
- ・ここでは「Critical Thinking」とした。



## 1. 商社マンから学長に

- (1) ①私は 2018 年に神田外語大学の学長に就任してから今年で 6 年目になる。
- ②第一次石油危機直後の 1975 年に大学を卒業して、三菱商事に入社した。
- ③「ジャパン アズナンバー ワン」と浮かれた時期を経験し、
- ・ライバルである中国とインドが、
  - ・21 世紀には日本を抜くであろうことは意識していたものの、
  - ・アジア経済危機でダメージを受けた韓国が、
  - ・重化学工業のみならずソフト面でも日本を陵駕することを想定できなかった。
- ④付加価値の源泉が、
- ・モノからコトへ推移することを人一倍意識していたにも拘わらず、
  - ・20 世紀型の思想から抜き出せず
  - ・「失われた 30 年戦犯」の一人として恥じている。
- (2) ①また、日本が国際社会でリーダーシップを取れないのは、
- ・多くの日本人が画一的没个性的であり発想の面白みに欠け、
  - ・更に英語が不得手なことが理由と思われる。
- ②企業、業界、学校、役所、団体、政党などの組織が
- ・タテの関係を重視し、ヨコの連携を嫌い、
  - ・それぞれのタテ社会で内向きになり、ウチ弁慶化した結果と考える。
- ③オープンイノベーションが進まないのは
- ・自己を相対化できず、
  - ・自己肯定感も低く
  - ・またウチからの同調圧力に弱い
  - ・社会そのものが原因であろう。
- ④役所、会社のコミュニティーも
- ・仕事上の部、課といった組織単位でごちんまりとかたまり、
  - ・異業種間交流も形式的
- ⑤学生を預かる大学には
- ・積極的に自分の専門以外と
  - ・異質な発想や文化を「繋ぐ力」を育み
  - ・面白みのある風土を作る義務がある。
- (3) 日本経済は絶対に破綻しない。
- (4) これによって、財政政策の効果が出やすいというメリットもある。



## 2. 経団連のアンケートを読む

- (1) ユニバーサル化する大学と学生に共通して必要な力は、
- ・それぞれのニーズに応じたコミュニケーションと
  - ・主体性に裏付けられた批判的思考力である。
- (2) ①大学社会には「産業界は即戦力を求めている」との誤解があるように思えるが
- ・2021 年に経団連が行った「採用と大学改革へ期待に関するアンケート」(2022 年 1 月 18 日



付)の結果には

- ・「特に期待する資質」として回答企業の約 8 割が「主体性」「リーダーシップ・協調性」等を挙げた。

②変化の激しい人生 100 年時代を迎え、

- ・「学び続ける力」と回答した企業が 4 割近い

③特に期待する能力として、

- ・「課題設定・解決能力」
- ・「論理的思考力」
- ・「創造力」が上位だ。

④いずれも Society 5.0 において求められる能力として、

- ・「産学協議会」で認識が一致したものだ。

⑤特に期待する知識として、

- ・「文系・理系の枠を超えた知識・教養」が最も多く
- ・「リベラルアーツ教育や文理融合教育を重視した教育の実践が重要。
- ・専門教育の重要性も認識」とある。
- ・経済界が求める学生像のトップが
- ・「主体性」「リーダーシップ、協調性」等であり、
- ・「考える力を有するもの」と
- ・いわば Critical Thinking 力を持つ者だ。



(3)①私は 40 年間企業人として直接、または間接的に採用に拘わってきたが

- ・組織人としての「協調性」を重視し、
- ・仕事に必要な専門知識や技術は入社後の社内教育で鍛える前提で
- ・大学教育に多くの期待をしてこなかった。

②昨今入学試験科目が減り、

- ・文系の受験科目には数学を課さず
- ・理系の受験科目に歴史が無い大学が多く
- ・偏差値は全体学力の指標ではない。

③既に供給過剰の構造不況業種となった私立大学では、

- ・上位 15%難関大学では従来型筆記試験での選抜が機能するが

④大半の私立大学では、

- ・入学者の 6～7 割りは学校推薦、AO 型入試または附属高校出身となり
- ・無試験入学化の傾向が強まる

⑤従来高校生は模擬試験の偏差値を基準に大学を選ぶ傾向があり、

- ・高校教員や保護者も偏差値を重視し、
- ・企業側にも 18 歳時の偏差値序列を能力の目安にする傾向があった。

⑥しかし、これからは、難関大学は別として、

- ・模擬試験の成績と各大学入学者の学力との相関が弱くなるにつれ、
- ・自ずと偏差値信仰が薄れる。

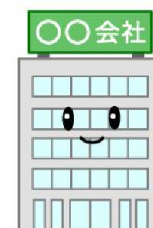
⑦但し、地頭重視と称し、



- ・高校や小中学校の偏差値を評価基準とする
- ・「ポテンシャル採用」は多様性の一つだろう。

#### (4)①雇用形態は

- ・メンバーシップ型からジョブ型雇用に移る傾向があるとはいえ、
  - ・まだ大半は職務を特定しないメンバーシップ型を中心に推移する。
- ②しかし、被雇用者である個人は適所と高い処遇を求め転職は普通のこととなり、
- ・終身雇用制が一般的ではなくなる。
- ③企業内教育、特に転勤、配置換えによりジェネラリストを育成してきた企業は、
- ・「うちの会社」と呼んで、その共同体のメンバーを育てようとしたが
  - ・頻繁な転職は割りが合わない。
- ④同じゼミ出身者がトヨタに入ると日産とは異なるトヨタ社内語を使い、
- ・三菱商事と伊藤忠入社組はそれぞれ立ち振る舞いが違う企業色に染め上げられたが、
  - ・各企業が従順な人を、時間をかけて育てる牧歌的な時代が終わる。
- ⑤生涯学び続ける習慣(Lifelong Learning)」
- ・「モノゴトを自分の頭で批判的に考える力(Critical Thinking)」を身につけるとともに、
  - ・「タテの専門性を鍛え上げる過程でココの繋がりや意識し繋ぐ力」を持ち、
  - ・育成し輩出することが大学の果たすべき使命であり、
  - ・社会から求められることである。
- ⑥因に、40年間ビジネス現場にいた私は、
- ・一度たりとも大学に「即戦力を求める」と唱えたことは無い。



### 3. 思考のブラックボックス化に対抗し、判断する

#### (1)①産業革命以降急速に進んだ社会の分業化は、

- ・AIの幾何級数的進化やグローバル化の進展により、
- ・際限なく細分・先鋭化する。

#### ②「繋ぐ力」は、

- ・ある専門分野とそれとは異なる専門分野を
- ・または複数の専門分野や領域を
- ・組み合わせ領域間の垣根を越えて
- ・固定観念にとらわれず
- ・創造的な着眼点で
- ・アイデアを生み出す原動力となる。

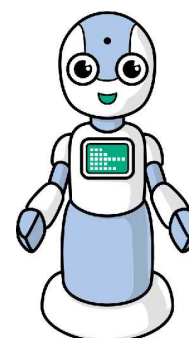


#### (2)① ChatGPT を引き合いに出すまでもなく、

- ・AIは我々の思考、思索に大きな影響を与える。

#### ②思考、思索過程は、

- ・ブラックボックス化され、
- ・人間は疎外され、
- ・直感力さえも失う可能性がある。

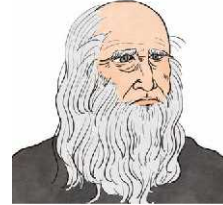


- ③また、情報というより膨大な選択肢に、
- ・ 圧倒される中で様々な決断を迫られるが、
  - ・ その過程は複雑で論理が見え難い。

- ④今こそ、批判的に考える力、
- ・ すなわち Critical Thinking 力を鍛えねばならない。

- (3)①凡人はレオナルド・ダビンチにはなれないが、
- ・ 幅広く好奇心を持つ人材にはなれる。

- ②様々な領域、分野を超えて、
- ・ 対話ができる人材の厚さが、
  - ・ 組織力、国力になる。



- ③「Critical Thinking」という言葉を使う意図は、
- ・ 批判的にモノごとをとらえ考え、
  - ・ 門外漢が堂々と意見を言う風土を作り、
  - ・ 異文化、異業種、異領域など
  - ・ 多様性に挑戦する姿勢を強調したもの。

- ④"Knowing All"より"Being Known"は、
- ・ 自分の領域、分野、存在、意識などについて、
  - ・ 他の理解を求める姿勢だ。



#### 4. 専門と専門、専門と一般を繋ぐ

- (1)①「繋ぐ力」をあえて言い換えれば、
- ・ 「リベラルアーツ力」、「対話力」と言えるだろう。

- ②軍事に文民統制が求められるように、
- ・ 高度に専門化された領域である遺伝子工学、宇宙原子力利用など、
  - ・ ブラックボックス化されやすい人類存亡にかかわる課題には、
  - ・ 市民目線の議論が不可欠である。

- ③レイマンコントロールの例として、
- ・ 裁判員や教育委員会制度があるが、
  - ・ 専門家と一般市民が無意識に不可侵領域を作り、
  - ・ 素人が素直に意見を発するのを躊躇い、
  - ・ また、専門家が一般的な言葉で表現しない風潮が危険だ。

- ④素人が堂々と専門家に説明を求め、
- ・ 専門家が言語化能力を向上させ説明責任を負う風土が
  - ・ 活性化を生むが、
  - ・ 素人の基礎知識は即時に陳腐化するので、
  - ・ 常に刺激が必要だ。



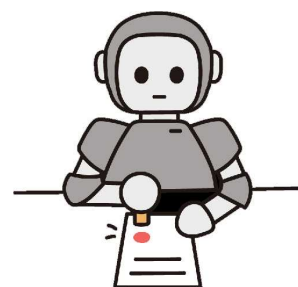
- (2)①一方で、反知性的ポピュリズムが影響力を高め、
- ・ 極端な感情論が横行し、
  - ・ 素直な知的対話能力が低下している。

- ②企業、役所や大学など集団が、
- ・それぞれ閉鎖的になり、
  - ・同時に遠慮という不可侵関係が集団防御策にも見える。



- ③多様性に対して、
- ・違和感を抱かず、
  - ・寧ろ好奇心を高める風土が健全な市民社会の基盤であり、
  - ・イノベーションには不可欠だ。

- ④学生には、
- ・大学、学部、学科を越えた交流や留学、
  - ・ダブル・ディグリーなどに挑戦させ、
  - ・さらに、AI や量子コンピュータの活用を促す仕組みを強化したい。



- ⑤文理融合、領域の壁を壊し、
- ・自由な発想力、対話力を鍛える
  - ・開放的な場として、大学を変革したい。

(3)①ビジネス界には、

- ・「コングロマリット ディスカウント」という言葉があり、
- ・何にでも食いつき手を出す経営を「ダボハゼ経営」と揶揄し、
- ・有限な経営資源にも拘らず、優先順位を考えずにばら撒く、
- ・無策経営故に資本市場における評価が低くなる現象を指す。

- ②マネージメントの「繋ぐ力」不足が原因でもあるが、
- ・総合電機メーカー、総合スーパー、総合商社、総合化学メーカーなど、
  - ・総合と名のつくところは非効率の典型と考えられ、
  - ・各社はコア事業以外を分社、または売却させメリハリのある投資を促す。



(4)①因みに私は、コングロマリット追求が非効率であり、

- ・諸悪の根源との味方には懐疑的であり、
- ・寧ろコングロマリットの経営力強化により
- ・企業内専門組織を有機的に結びつけ新しい価値創造を狙い、
- ・「コングロマリット プレミアム」追求に興味があるが、
- ・日本社会の組織閉鎖性、タテ社会、利権社会を壊し、
- ・その構造を変える強い経営力が必要だ。

- ②「繋ぐ力」と研ぎ澄まされた論理と直感力や直観力が勝負になる。

## 5. 「繋ぐ力」を育む仕組み

(1)①広く教員を集め Critical Thinking 力を高めるカリキュラムを作り実践したいが、

- ・既存学部単位で異なる専門分野、領域の教員を基幹教員として迎えても、
- ・学部や領域といった既存の枠に縛られ限界がある。

②内外の大学連携を強めようにも

- ・索引力と強い触媒が必要で
- ・単位発行など権限を持つ学部外組織を検討すべきではないか。



③今後活発になると思われる企業、役所、諸団体の学生インターンシップ制を勧める

- ・各大学のキャリア教育センターに、
- ・アカデミア全体と社会一般を繋げる総合機能を持たせるのも一案だ。

④ただし、キャリア教育センターは、

- ・現在でも「就職斡旋部」のような印象があるので、
- ・メッセージ性を持たせ「Critical Thinking センター」に名称変更することも考えられる。

(2)①国家が大学の教育の箸の上げ下ろしにまで介入することには疑問を持つが、

- ・自己変革力が乏しいこの社会では、
- ・例えば、文部科学省が、
- ・バーチャルな大学間連携により質の高い教員を総動員し、
- ・「モデルコアカリキュラム」などの形で、
- ・Critical Thinking 教育を推奨するガイドラインを示すなど、
- ・これまでにない試みを提唱したい。



②基幹教員制度、特例制度によるオンライン授業の上限単位制限の緩和は、

- ・学生達が幅広く学べる環境移行への象徴的転機になろうが、
- ・さらに一步勧めて、
- ・大学間や学部間の枠を超えて学生の学びの間口を広げるための新しい制度を作り、
- ・ダブル・ディグリーを取りやすくする環境を整えることも検討に値しよう。

#### <コメント>

批判的思考、クリティカル・シンキングの第一人者、神田外語大学学長宮内先生の御意見は大賛成。このテキストを「クリティカル・シンキング」の基本的テキストにして、この内容の実現を考えることが大切と確認します。

